

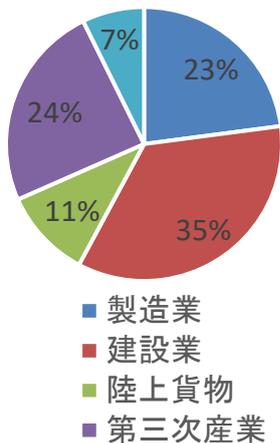
ANNZEN 通信

1号

発行年月日
2022年7月6日
責任者
牧田寿也
編集長
白鳥透

労働災害発生状況 1～5月

全死亡災害275人(前年比+28人)
建設業 96人(前年比+8人)
製造業 63人(前年比+21人)
陸上貨物運送業29人(前年比-6人)
第三次産業67人(前年比+12人)



大事な人が災害にあわない 人材と利益の損失を防ぐために

労働死亡災害の主な業種の発生状況です。依然として死亡者は減少していません。

そこで、今回は危険予知活動の一環として事故災害防止の有効な手段である「指差呼称」を取り上げてみたいと思います。

指差呼称とは

作業対象、標識、信号、計器類に指差を行い、その名称と状態を声に出して確認することを指差呼称と言います。

指差呼称の手順(例)

「指差呼称」は次の手順で行います。

- ① 対象を見ます。
- ② 声に出しながら右腕を真っ直ぐ伸ばし対象から目を離さず、人差し指で対象を指差します。
- ③ 差した指を耳元まで戻しながら「本当に良いか」確かめます。
- ④ 確認出来たら「ヨシっ」と発声しながら、対象に向かって再度右手を振り下ろし指差します。



指差呼称の動画

声出し、腕の振り下しは何故必要か?

“声出し”と“腕の振り下し”は脳の活動を活発にし、フェーズを変えることに大きく関与しています。

① 末梢の筋肉知覚のうち、口の周りの咬筋(こうきん)の運動が伝える刺激は、脳が情報を的確に処理できる状態にするのに大きな役割を果たす。

② 腕を振り下ろした時の腕の筋肉の中の筋紡錘(きんぼうすい)への刺激が、大脳の働きを活発にする。

③ 視覚だけでなく、

ボタン押し間違い発生率実験結果

	発生率
何もしない	2.38%
呼称のみ	1.00%
指差のみ	0.75%
指差+呼称	0.38%

*:確認しないとブラインドタッチ
指差とは「見る+指差」

大丈夫ですか?

【指差し】による運動知覚、【呼称】による筋肉知覚や聴覚などの諸領域の参加によって、意識に強く印象付けられ、対象認知の正確度が高まる。(公益財団法人) 鉄道総合技術研究所

技能講習、特別教育、安全衛生教育は5年ごとに再教育が必要と労働安全衛生法に定められています。(安衛法60条の2第2項)

再教育が必要な講習として、技能講習では、フォークリフト・玉掛け等、特別教育ではフルハーネスを用いて行う業務等、安全衛生教育は職長等には義務があります。

労働災害防止のための知識、意識向上が目的の講習です。

大切な人材を守るために、社会的信用度を守るためにぜひ受講をしましょう!!

センターの想い

当センター年間約2千人の方に「ANNZEN」を学ぶ場としてご利用して頂いています。

当センターの各種講習は、「資格取得」だけでなく、「事故災害を起こさない」「資格を取った事で幸せに仕事ができる」を念頭に講習を行っています。

「ANNZEN」の学びの場として是非ご利用下さい。